

2013年

年頭のあいさつ

■平成24年回顧

あけましておめでとうございます。昨年の年の瀬は「近いうち解散」で揺れ動き、一年を通して、これからの日本を左右するような大問題が続出し、浮遊感漂う大変な年でした。解散総選挙の結果は与党民主党や第三勢力の惨敗でした。

特例公債法案は、特例公債を発行するための1年限りの特例法で、毎年、その年の国債を発行させる必要があります。国会では、与野党の駆け引きの材料となって成立が遅れ、地方自治体にもその影響を受けました。

経済面でも円高デフレ状態の中、19兆円の震災復興予算の使途不明も表面化し、東日本の復興も進まず、政治も経済も先行き不安な材料ばかりの政権交代でした。

一回やらせてみたらという、甘い国民の選択が地獄を見たことになったわけです。

■今、求められるのは減災

また、ここ数年、自然界においても「過去に経験したことのない」という気象用語も生まれるほど、自然災害が猛威を振るっています。

災害の備えに万全ということはありません。今は自主防災、協働によって災害から被害を少しでも小さくすることが求められています。

須恵町長 中嶋裕史

省エネから創エネへ

■「創エネルギー」の時代

昭和39年、本町の基幹産業であった「国鉄志免炭鉱（国鉄志免鉱業所）」がエネルギー革命によって閉山し、半世紀を迎えようとしています。ですが、石炭から石油へ、化石エネルギーから原子力へ、その原子力が福島第一原発事故によって、再生可能エネルギーへと転換が余儀なくされています。

これから原発のない冬を迎え、節電が再稼働かで揺れ動いていますが、節電や高い電気代

省エネでは、産業は活性化しません。

これからは、「創エネルギー」の時代です。安価で安定的に供給ができる、新エネルギーをどう補うかが問われており、今回の選挙の争点ともなりました。

■平成25年祈念

今年（今年）は癸巳年、国民が選択した政権で国政がうまく機能し、素晴らしい年になりますように願います。年頭のあいさつとさせていただきます。

■新年のあいさつ

新春のお慶びを申し上げます。

町民皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は議会活動に対し、格別のご理解とご高配を賜りまして、心から厚く御礼申し上げます。

■国の行く末

昨年12月には衆議院議員総選挙が実施され、新しい国の方向性が選択されました。今後の国政が注目される所です。

■町内で進む開発

さて、須恵町においては、今年4月に第二幼稚園（れいんぼー幼稚園）が開園し、8月には須恵スマートICに接続する志免〜須恵線が開通します。道路沿いにはインター周辺に自動車関連企業やドラッグストア企業などが進出予定です。

■高まる役割の重要性

このように開発が進む中、地域にとって本当に必要な事業を決定する際、立法府を構成する議員と行政を執行する首長による二元代表制において、議員の役割はますます重要になっていきます。

須恵町議会議長 三角良人

明るい話題が 多く作られる年に

議会改革の議論では、経費削減・議員定数の削減が叫ばれますが、議員定数の減少は、議会機能の弱体化を招きます。そして、結局議会は何もできないという不幸な負の連鎖が起きてしまいます。

■平成25年祈念
本年は巳年。「巳」の字には、「止む」の意味があり、草木の生長が極限に達して次の生命が作られるはじめる時期を表しているそうです。さまざまな苦難があった日本に明るい話題が多く作られることを祈念する所です。

終わりに、この新しい年が皆様にとってより佳き年になるよう心より祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

